氏名：レラ・タリアシュヴィリ 博士

配属先：コスタリカ大学（UCR）物理学部教授

コスタリカ大学（UCR/ CLAF-CA）ラテンアメリカ物理学センター副所長

コスタリカ大学（UCR/ CINESPA）宇宙研究センター/プラネタリウム研究員

私は、プラネタリウム（UCR）の設立から最初の 14 年間（2005 年～2019 年）に渡り、共同設立者兼コーディネーターとして務める栄誉に預かりました。 2005 年から JICA コスタリカ支所と協議を開始し、コスタリカ大学プラネタリウムの協力オプションを検討してきました。特に、五藤工学研究所の専門機器とその付属品の管理に関する協力が主な目的でした。

2006 年から望月征司 JICA シニアボランティアが、プラネタリウムの専門技術者および研究員を対象に、機器に関する研修や指導を２年間行っていただきました。これらの研修と実践は、総合的な機器の適切な運用とメンテナンスに不可欠でした。これらの取り組みにより、コスタリカ大学（UCR）のプラネタリウムは、20 年間の運用期間中も故障なく今も稼働しています。

また、友好的な関係が築かれ、情報交換や文化交流が行われ、これらは間違いなく関係者の意欲を高め、プラネタリウムに関わる研究や職場環境を豊かにしました。私たちは、望月征司シニアボランティアが行った指導と、JICA が私たちにこの豊かで重要な経験を提供してくれた努力に、深く感謝しています。

2007 年、望月征司氏は特別なプログラム「Tanabata」を設計されました。これは、カウンターパートと共に、プラネタリウムでの上映を目的としたプログラムとして作成されました。「Tanabata」は、コスタリカ大学プラネタリウムで制作された大変人気がある 23 のオリジナルプログラムの一つです。

JICA の長期にわたる支援を受け、プラネタリウムで実施された多様な教育活動、科学普及活動、特別イベントは、相互協力に基づき、特定の目的または一般市民の参加を目的として行われてきました。特に注目すべき成功を収めた活動には、

コスタリカ国民から幅広い人気を得た、日本大使館と共に実施する「日本週間」の行事があり、その一環として「Tanabata」の特別プログラムも 10 年以上にわたり開催されてきました。

JICA に対する私たちの印象は、国際協力を推進する機関であることは間違いありません。さらに、日本国内の機関やプログラムとの協力・寄付を下に生まれたプロジェクトに対し、適切なフォローアップを実施している点も評価しています。フォローアップを通じて、問題や不足点が発見された場合、JICA はボランティアなどを派遣するなど、プロジェクトの成功を確実にするよう努めています。こうした日本ならではの国際協力を担う JICA の特筆するべき活動の証左の一つであると考えられます。

Tanabata プログラム　天上の動物園